

あんしんすこやかセンターから他職種への主な意見・提案

対象	カテゴリー	主な意見・提案
病院	在宅移行	できるだけ退院前カンファレンスに参加できるように招聘してほしい。家族背景などの課題を共有してほしい。
		重度化する前に早期に相談してほしい。（がん・非がん共に）
		病院の外来医師に在宅医療提案をしてもらいたい。在宅医療を啓発して連携強化したい。
		退院支援担当者の在宅医療の知識向上、地域との連携を強化したい。
	ACP	退院時のACPの確認してほしい。
診療所・在支診	在宅移行	外来医師に在宅医療提案をしてもらいたい。在宅医療を啓発して連携強化したい。
		外来医師にあんすこを活用してもらいたい。
	ACP	ACPに焦点をあてた多職種連携を進めてほしい。
	多職種連携	外来医師に社会資源活用してほしい。
		訪問看護の利用促進を図ってほしい。
専門医の活用・連携を強化してほしい。（認知症、皮膚科、精神科など） 担当者会議に参加してほしい。		
訪問看護	在宅移行	訪問看護ステーションの情報が少ない。（24時間対応、認定看護師、専門性など）
	多職種連携	認知症初期からの訪問看護対応を行ってほしい。
		ケアマネジャーとの連携強化を図ってほしい。
24時間対応	24時間対応力の向上と、適時の導入を図ってほしい。	
ケアマネジャー	在宅移行	外来医師との連携強化を図ってほしい。適時の在宅医療移行を行ってほしい。
	ACP	ACP視点、長期視点でのケアプラン作成を行ってほしい。（半年後にどうなっていたいか？）
		認知症の方へのACP実践を図ってほしい。
多職種連携	認知症対応力の向上、認知症の方の在宅療養の知識向上、事例検討の共有。認知症の方への訪問看護利用をしてほしい。 訪問看護のメリットの理解。関係性をつくるためにも訪問看護の早期導入（訪看・リハ入りやすい方から）してほしい。 小多機、看多機、地域包括ケア病棟の活用を促進してほしい。	
介護職	ACP	介護職によるACPの実践を行ってほしい。
	多職種連携	介護職から介護スキルについて家族指導を強化してほしい。
他、全体へ	多職種連携	MCSの積極活用。リアルタイムで密な情報共有ができるようにしてほしい。MCS開設手続きを医師経由ではなく簡略化してほしい。
	24時間対応	災害対応を考えると地域の在宅医が必要である。
世田谷区	在宅移行	地域での出張相談会（介護者、在宅医療未利用）を開催する際の補助金を出してほしい。
	ACP	ACP、在宅医療、介護保険利用、最期まで家で暮らせることの啓発を若い層にも具体的に行ってほしい。
	多職種連携	レスパイトサービスの充実をしてほしい。
		総合事業の専門職訪問指導を要介護者も対象にしてほしい。
		認知症サポーター養成講座、オレンジカフェの利用促進を図ってほしい。 認知症当事者のための社会参加型プログラムの普及を行ってほしい。 医療保険対応の重度認知症デイケアを増やす、誘致してほしい。

地区連携医事業全体会での意見まとめ

あんしんすこやかセンターで取組めそうな主な内容

カテゴリー	取組みの主な内容
地域住民向けの取組み	ACP普及活動を行う。認知症初期の段階でのACPも検討していく。
	在宅療養の講座を継続していく。リーフレットを作成する。出張相談会を開催する。
	訪問診療・訪問看護の導入のタイミングを啓発していく。
	当事者が自分の体験談を語る場を作っていく。
	認知症とともに生きる希望条例について、区民に啓発、理解を深めていく。
地区連携医事業での取組み	専門職がACPを自分ごととしてかंगाえられるように勉強会を開催する。事例共有を行う。
	地域の医療・介護事業所と連携を強化していく。課題を共有し事例検討会などを行っていく。
	ケアマネジャーと勉強会を開催して、医療介護の質の向上を目指していく。
	ケアマネジャーと介護職向けに勉強会を開催して、医療知識の向上を目指していく。
	医療機関（外来・在宅とも）を巻き込み連携を強化していく。
	訪問看護の役割やできることを啓発していく。
	小多機、看多機、定期巡回の使い方をあらためて考えていく。
	病院関係者に在宅療養を理解してもらうために、病院関係者を含めた多職種交流会を行う。
	認知症とともに生きる希望条例について、皆で考えて理解を深めていく。
	地域ケア会議Bの事例を共有し、本人の思いを聞き取る機会の一つとして周知・活用していく。
	連携医事業への参加者、参加職種、参加事業所を増やしていく。
その他	インフォーマルサービス、地域資源をリサーチして情報提供を行っていく。
	自宅でできるフレイル予防方法を啓発するなど健康寿命延伸を図っていく。
	あんしんすこやかセンターをもっと地域の人に知ってもらうよう広報活動をしていく。クリニックの待合室に広報誌をおいてもらう。
	認知症カフェ・家族会を再開し、本人・家族のための居場所を作っていく。
	認知症アクションチームの普及啓発を図っていく。
	まだ介護が必要でない高齢者が活躍できる場を作っていく。